

SDGs 達成のための ESD 担い手育成事業(2018 年度)

この事業は、地域リーダーが地域版 ESD プログラムづくりをしながらお互いに育ち合う活動を通して、千葉県内に地域 ESD リーダーを育成していく活動です。

1 年目の 2018 年度は、環境省の「ESD モデルプログラム」を元に、まずは ESD の視点を学び、リーダー自身が既に使っている環境学習プログラムを、ESD の視点を入れたプログラムとして見直していく方法で実施しました。

7 月 19 日は、グループ「地球温暖化・水・資源循環・生物多様性」ごとにモデルプログラムを地域版 ESD プログラムにするワークをしていただきました。

9 月 18 日には、1 ヶ月の間にグループ単位で集ったり、メールで意見交換しながら修正をして、地域版 ESD プログラムとして発表しました。その午後には、SDGs プラットフォームを検討するメンバーにも聞いていただき、ご意見をいただきました。また、この回よりファシリテーターとして石井雅章氏（神田外語大学）に参加いただきました。

11月26日に、グループでプログラムのブラッシュアップの後、プログラムづくりから課題になった「学習者が習得できるESDの視点」について、全員で意見出しをしました。また、プログラムのフォーマットを全員で検討しました。

このフォーマットに各々が内容を入れて、1月21日にはみんなでふりかえり、「ESDの視点を入れたプログラム」を更に検討しました。

2月8日には「地域リーダーが作った ESD プログラムガイドブック」素案出しをして、参加者が意見を出し合い、まとめたものが今年度の成果物であるこのガイドブックになります。

このガイドブックの中「ESDモデルプログラムづくりの流れとプログラムシートの読み方」で、ファシリテーターの石井雅章氏が、「ESDプログラムは与えられるものではなく、目の前にいる学習者と持続可能な社会づくりを結びつけるために、自分たちで考え、実践しながら、更新していくものと言えます。」と書いておられます。来年度実施を予定している千葉県北部のESD地域リーダー育成にも活用が期待されます。

ニュースレターの中の2面3面を使って、13人リーダーの15プログラムの概要を一覧で載せています。文字が小さく読みにくいかもしれません。ガイドブックが見たいと思ってくださった方には、メールでお送りできますので、お申し出ください。また、皆さんで練り上げたプログラムのフォーマットも書き方付きで4面に掲載していますので、参考までにご覧ください。

来年度、再来年度のESD担い手育成事業にもご協力のほどよろしくお願いいたします。

発行: 特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば <http://kanpachiba.com/>

この事業は、地球環境基金の助成を受け実施しています



ESD の視点を入れたプログラム集 2018 (ESD地域リーダー育成事業 2018 年度活動のまとめ)

学習テーマ	地球温暖化・エネルギー				水 環 境			
プログラム名	食べ物はどこから来たの？	白くまさんとワットの話	ごみってなあに？	地球温暖化ってなあに？ ～ビンゴゲーム～	親子はじめてハゼ釣り教室	磯の生き物発見ツアー	誰が川を汚したの (印旛沼バージョン)	みんなのトンボ池 ESD パージョン
対 象	小学生高学年	小学校4～6年生	小学校4年生以上	小学校4年生以上	小学生以上の親子	小学校4年生～大学生	印旛沼流域の小学生以上	小学校4年生～高校3年生
人 数	30名	20～30名	30名	10～30名	20組40人	1クラス～5クラス	10～30人位を基本とする	4～5人/グループ (3～5グループ程度)
教科/分野	社会科・総合学習/『地球温暖化・エネルギー』	理科・社会「地球温暖化・エネルギー」	社会科 /『地球温暖化・エネルギー』	理科、社会/『地球温暖化・エネルギー』	水辺の環境保全	理科・社会・家庭・国際	総合的な学習 社会科	理科、社会
授業時間数	夏休み 午前:エコクッキング(体験)+ 午後:体験と講義 120分	45分間授業	45分	小学校:45分総合学習、公民館:45分分出前講座	夏休みの1日かけて 午前～午後(4時間)	1時間～4時間	最低2時間(2コマ)	60分授業 1コマ(+【発展】を行う場合は1コマ追加)
場 所	公民館 調理室+会議室	各小学校の特別教室	屋内	小学校、公民館	午前:室内(広い公民館等)、午後:野外(川辺)	磯・砂浜・レクチャールーム	室内	室内
持続可能な社会づくりの構成概念	有限性 /相互性 /多様性	公平性/相互性/有限性 /連携性/責任性	多様性/相互性/有限性 /連帯性/責任性	多様性/相互性/有限性 /責任性/連携性/公平性	多様性/ 相互性/責任性 /連携性	多様性/有限性/公平性 /責任制	多様性/相互性/有限性 /責任性/連携性/公平性	多様性/相互性/公平性
重視する能力・態度	未来像を予測して計画を立てる力 /多面的、総合的に考える力 /コミュニケーションを行う力	批判的に考える力 /未来像を予測して計画を立てる力 /つながりを尊重する態度 /他者と協力する態度 /多面的、総合的に考える)	多面的、総合的に考える力 /批判的に考える力 /進んで参加する態度 /つながりを尊重する態度 /他者と協力する態度	批判的に考える力/未来像を予測して計画を立てる力 /多面的、総合的に考える力 /コミュニケーションを行う力 /進んで参加する態度 /つながりを尊重する態度 /他者と協力する態度	批判的に考える力 /未来像を予測して計画を立てる力 /多面的、総合的に考える力 / コミュニケーションを行う力/参加/つながり /他者と協力する態度	批判的に考える力 /未来像を予測して計画を立てる力 /多面的、総合的に考える力 /進んで参加する態度	多面的、総合的に考える力 /コミュニケーションを行う力 /進んで参加する態度 /つながりを尊重する態度	未来像を予測して計画を立てる力 /多面的、総合的に考える力 /進んで参加する態度 /他者と協力する態度
協力団体	温暖化防止うらやす	個人	アースドクターふなばし	アースドクターふなばし	浦安水辺の会	NPO 法人 千葉自然学校	NPO 環ぱちば	八千代エンジニアリング株式会社

学習テーマ	資 源 循 環			生 物 多 様 性			
プログラム名	さき織りでコースターを作ろう	生ごみリサイクル教室	植物油を通して世界を感じよう	田んぼと里山と生物多様性	いのちの森の日<4月> (五感で春を感じよう)	学校ビオトープと里山を繋げる	おや子生き物探検隊
対 象	小学4～6年生	小学校4年生	小学校高学年 or 中学校1,2年	小学校5年生、6年生	小学生以上の親子	小学生以上の親子	小学生以上のおや子
人 数	1クラス 30～35人	1クラスから4クラス	5人から最大 30人	5名～50名	親子40人～親子60人	親子50人～親子70人	親子10組(20人)～親子15組(30人)
教科/分野	家庭科	総合学習(社会・理科・家庭)	理科	総合的な学習の時間(理科・社会)	総合的な学習の時間(理科・社会)、生活科	総合的な学習の時間(理科・社会)、生活科	総合的な学習の時間(理科・社会)
授業時間数	45分×2コマ	45分授業2コマ(5月又は6月、と9月)	50分授業 4コマ分 or 5コマ分	10～25時間	3.5時間 (毎1回の活動の4月分)	4.5時間 (里山活動の4月、5月分)昼食30分含む	10時間 (毎回2時間活動(春・夏・秋・冬))
場 所	小学校家庭科室	教室又は体育館など、9月は校庭も使う	理科室 and 教室	田んぼ～川(小川・水路)～森などが重要	学校ビオトープ(いのちの森)	野外(大野台の里山:いのちの森里山フィールド)	屋外 屋内(公民館等)
持続可能な社会づくりの構成概念	有限性/責任制	相互性/有限性/公平性 /責任性	有限性/責任性	多様性/有限性/責任性 /連携性	多様性/相互性/連携性 /責任制	多様性/相互性/連携性 /責任制	多様性/相互性/連携性 /責任性
重視する能力・態度	多面的、総合的に考える力 /コミュニケーションを行う力 /進んで参加する態度 /つながりを尊重する態度	批判的に考える力 /多面的、総合的に考える力 /進んで実行(参加)する態度 /他者と協力する態度	多面的、総合的に考える力 /コミュニケーションを行う力 /進んで参加する態度 /つながりを尊重する態度 /他者と協力する態度	批判的に考える力/未来像を予測して計画を立てる力 /多面的、総合的に考える力 /進んで参加する態度 /つながりを尊重する態度	多面的・総合的に考える力 /コミュニケーションを行う力 /進んで参加する態度 /つながりを尊重する態度 /他者と協力する態度	多面的・総合的に考える力 /コミュニケーションを行う力 /進んで参加する態度 /つながりを尊重する態度 /他者と協力する態度	多面的・総合的に考える力 /コミュニケーションを行う力 /進んで参加する態度 /つながりを尊重する態度 /他者と協力する態度
協力団体	ファイバーリサイクルうらやす	NPO法人ビオスの会	個人	房総野生生物研究所	グループ2000(環境に学ぶ)	グループ2000(環境に学ぶ)	八千代市はたの里づくり実行委員会

プログラム名

対 象：(学校種や学年など)
 人 数：(最少催行人数から最大人数など)
 教科／分野：(教科や分野との関連があれば)
 授業時間数：(単発でも、連続でも可)
 場 所：(屋外の場合は雨天時の対応も)

*このフォーマットは、余白を詰めています。適宜広げて使ってください。

ESD プログラム への思い	(今回、ESD を意識したプログラムをつくるにあたって、「これを大切にしたい!」「こういう考え方を意識した」「こんな視点を重視した」というものを記述してください)		
目標	(このプログラムをつうじて、学習者がなにをできるようになることを目指しているのかを箇条書きしてください。その際、「学習者が・・・ができるようになる」「学習者が・・・を考える」「学習者が・・・を習得する」などのように、学習者を主語として表現してみてください)		
特徴	(他のプログラムとの違い、工夫した点、地域の特性など、このプログラムの特徴について箇条書きしてください)		
持続可能な社会 づくりの構成概 念	(このプログラムと、持続可能な社会 (SD) を実現する6つの構成概念[多様性・相互性・有限性・責任性・連携性・公平性]とのつながりを記述してください)		
重視する 能力・態度	(このプログラムをつうじて学習者に修得してもらいたい能力・態度があれば、記述してください。①批判的に考える力、②未来像を予測して計画を立てる力、③多面的、総合的に考える力、④コミュニケーションを行う力、⑤進んで参加する態度、⑥つながりを尊重する態度、⑦他者と協力する態度)		
プログラムの流れ			
内容：(活動内容を具体的に記述してください)			
方法：(講義・体験など活動の実施方法を記述してください)			
場所：(活動を実施する場所 (田んぼ、清掃工場、教室など) を記述してください)			
ねらい：(各活動で意図しているねらいを記述してください)			
時 間	ねらい	方法 場所	内容
SDGs との関連 性	(プログラムと SDGs との関連性がある場合、記述してください。* 169 の具体的なターゲットを示せる場合は、「14.1・・・」のように記述してください)		
学校・地域等と の 連携上の考慮	(学校・団体・地域等との連携上、考慮すべき点があれば記述してください)		
対象を発展させ る可能性	(もし、他の学年や学校種などを対象に発展できそうであれば、そのための工夫などを記述してください)		
その他 補足事項	(準備するものを指定するものがあれば記述してください)		

プログラム作成者名 (団体名) :